

家族（家）について(20260314)

家族とは何か？
何故血縁にこだわるか
同居、空間を共有

安全を願う→大切に思うのが家族
ペットの猫、犬など。牛、馬など家族として生活
故人に対する思い→大切にしてもらった
生きている家族、存在が大事

長子相続→家父長制→家を守る→公家、武家などは氏を持つ
氏を持てる者はわずかだった→大半が下の名前だけ→墓も土饅頭
夫婦となり家族になる→子ができる→親になる
つながり→疑似家族→運命共同体

家制度は明治になって一般に導入されたもの
「愛」が大切→神に向かう愛
心配すること、絆、親愛、同情、共感、慈愛など
「愛」は生けるものの持っている欲望、執着の一形態
人間的な、正しい、よい、の価値に向かう源泉

臣民は天皇の赤子という時代
個人、時間（歴史）、空間（居場所）、国家（文化、宗教）の要素がある
欲望にもレベルがあり、最高度なのが「愛」
愛がなくて生きて行けるか？
マフィア、やくざは家族と呼んでいるのか
国家は家族の延長か
実際は、愛憎、嫉妬、性の駆け引きをして生きている
生きるには欲望が必要→人間には愛が必要

外国人労働者の家族愛は濃密→昔の日本のよう
都市化された日本人は家族のつながりが希薄化し閉塞感（孤立）
家族は血の繋がりでだけではない
『万引き家族』→年金生活の老婆の家に泥棒カップルが棲みつき、見捨てられた子、虐待された子の面倒をみる・・・
長野の閉鎖性、地域性
結婚とは他人を選ぶこと、性的なひきつけ合い

DNA共有だけが家族ではない
思いやり、人間的な親愛のある居場所となっていた
その子を無条件に受け入れる
人口減少問題
義理家族→価値観の柔軟性

フランスは結婚しなくてもパートナーで子をなし、それを認めている→人口は上向きになった
信頼に値する人間になりたい
家族という閉塞的な制度→子どもは逃げられない
夫婦別姓→韓国、中国は別姓
男と女が出会い結婚して家族となり子ができる
生まれた後の家族は選択できていい

生きるために家族で助け合う

家族とは幻想の関
係（他者への愛憎、
嫉妬、性的興味な
ど感情の）

男女（夫と妻）が
関係することによ
り肉体（身体）と
しての私は確かに
誕生した

家族の中の諸関係
（思いやり、愛情、
助け合いなど）を
ベースに他人との
付き合い方を学び
育む

母子関係を中心に
して家族と一体の
自分⇒自分だとはわ
からない

私が私であるところの
私はいつから
私なのか

言葉をキーにして
自分を取りまく
様々な関係世界を
心の中につくり出
す

三才ぐらいのとき
自分が自分である
ことに気が付く⇒名
前

言葉をしゃべり出
す⇒私の世界、宇宙
をつくりはじめる
（自立存在）

身体の中に「私」
が生まれる（人間
として）

